

いわちゃん ポスト

千葉県議会議員

岩井 やすのり



1970 年生まれ 53 歳 専大卒・早大院修了 3 期目現職(印西市・栄町選挙区)

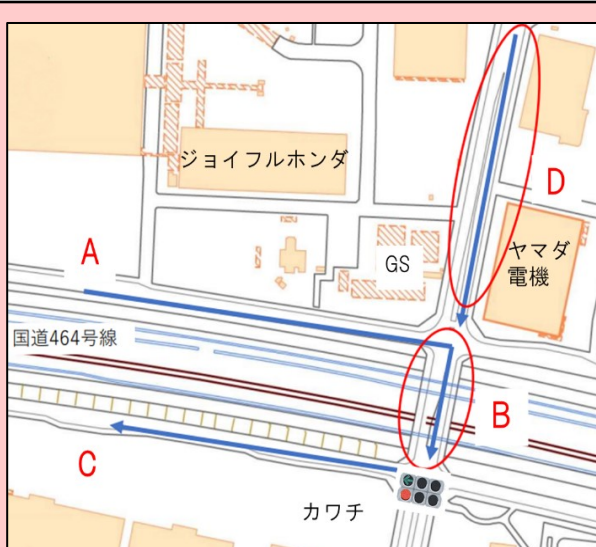
栄町安食台 2-26-23-202 fax0476-36-7802 mail@iwai-y.jp

牧の原地区の慢性渋滞

信号サイクルの変更を要望

国道 464 号をまたぐ橋上での滞留を原因とする、印西・牧の原地区の慢性渋滞。地元住民からの改善要望を受け、南北に通行する車両がより優先されるよう、信号サイクルの改善を働きかけています。

●カワチ前信号機「右折可」を青信号の前へ
近年、激しさを増す、印西市・牧の原地区の慢性渋滞。地域内に集中する大型商業施設に多くの車が押し寄せる上、駅北側を中心に住宅が増え続けていることもあり、特



国道 464 号を A からくる車両が C 方向(鎌ヶ谷方面)に戻る場合、B 右折レーンを利用することとなります。一方、地元住民を中心に、市道を南下し D から C 方向に向かう車両も少なくありませんが、A から右折して入ってくる車により B 右折レーンはいっばいで、青信号にもかかわらず前に進めません。その後、B 右折レーンが空いた時には D 側の信号が赤となってしまう、その間にまた B 右折レーンは A からの車でいっぱいになってしまうのです。週末には 1 回の青信号で、D から B 右折レーンにわずか 1 台しか進めないということも珍しくありません。

に週末には国道 464 号をまたぐ橋を中心
に車が数珠つなぎとなってしまう。問題
は、現状の信号サイクルが国道 464 号
側を優先しすぎていること。カワチ
前の信号機は、青信号の最後に「右折可」
の表示となるのですが、そこでさばけた右
折レーンは、左図の A 方向から来た車で
いっぱいとなってしまうのです。そこで要
望しているのが、同信号機について「青
信号になる前に『右折可』にする」とい
う信号サイクルの変更(※)。これによ

長門川整備が前進～将監川等の氾濫対策が課題

令和3年度から着工されている長門川の整備事業。今年度は約 140 ㌦、来年度には 400 ㌦余りの完成が見込まれる中、支川である将監川の氾濫対策、農業用排水路の確保は重要な課題です。

現在はその第一段階にあり、今年度は約 140 ㌦が進捗。令和 5 年度には、今年度から 2 年がかりで進められている 280 ㌦に加え、新たに着工となる 160 ㌦部分も完成し、合わせて約 440 ㌦の区間が完成する見込みとなっています。



●台風19号をきっかけに長門川事業が進展

栄町と印西市の境を流れる長門川。印旛沼水の排水に重要な役割を担いますが、河岸は木柵による補強さえほとんど行われておらず、大雨緊急時の排水に大きな支障となってきました。

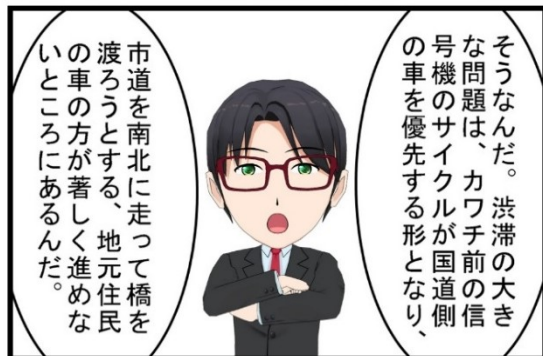
平成 30 年には、栄町・ふじみ橋～酒直水門(約 4.3 キロ)の築堤工事が事業化されたものの、当初は「完成まで 20 年はかかる」と言われるなど遅々として進まない状況。大きく動いたのは、令和元年の台風 19 号による被災がきっかけで、緊急時に印旛沼水を利根川にも排水できるように、長門川の整備事業に予算が投じられるようになったのです。

県は、水流により浸食しやすい場所など重点箇所を対象に、先行して矢板設置とコンクリート施工を行う第一段階、次いで盛土による築堤工事を行う第二段階に分けて事業を進める方針。

●逆流を防ぐための水門設置、護岸整備

さて、長門川への矢板・コンクリート護岸、盛土による堤防整備により、長門川の水位が上昇することとなります。結果、将監川など長門川に流入する支川や水路の水位が低くなり、緊急排水時に長門川水が逆流し、氾濫してしまう懸念があるのです。

対策として、逆流を防ぐための水門設置、支川や水路の護岸整備などが求められるところ。地元自治体である栄町や関係者からの声を受け、住民の生活が脅かされないことがないよう、県に対策の徹底を働きかけています。



※信号サイクルの変更案は、いわちゃんポストをご覧になり、「ご連絡いただいた市民の」指摘を参考にしたものです。

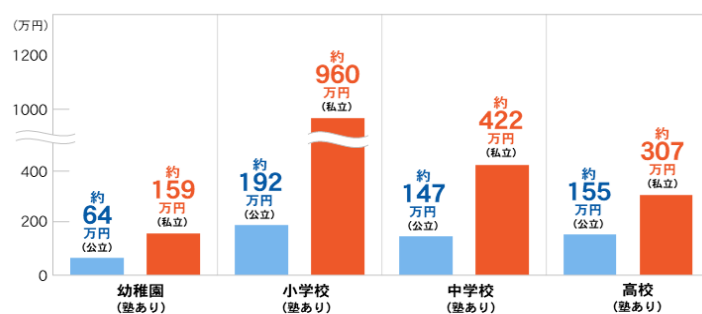
高校生・大学生のみなさんにも知ってほしい 子育てと教育の問題

教育費が高い

公立小学校に入っても、給食費や教材費が細かくかかってきます。仕事をしている場合には学童等の費用も必要です。また、大学入学への金銭的なハードルは高く、国立大の学費でさえ諸外国と比べると割高。貸与型奨学金を利用したものの、長期にわたる返済に苦しむケースもあり、**給付型奨学金の拡充**が求められています。



幼稚園・小学校・中学校・高校の教育費の平均（塾あり）



幼稚園から高校までの教育費に、塾・習い事の費用を加えた場合の平均は、全て公立の場合は約 558 万円、全て私立の場合は約 1848 万円となります。小学校に絞ってみると、塾・習い事をしている子どもは 75% にのぼっています。

補助金が

小さい子までしかない

子育てにかかる費用は、子どもの成長とともにどんどん増えていくもの。児童手当は 1 万円～1 万 5 千円/人ですが、所得制限がある上、支給は 15 歳まで。本当にお金がかかる**中学生、高校生以降の補助**が手薄となっていてしまっています。



仕事と子育ての両立が難しい

パパが残業で、ワンオペ状態となってしまうママ、休みを取りたくても取りづらい空気を感じるパパは少なくありません。働き方は多様になってきたものの、まだまだフレックスタイムやテレワークへの壁は厚いというのが現状。**子育てを前提とした社会の実現**が求められます。



岸田首相が「異次元の少子化対策」を表明し、児童手当の



拡充など経済的支援の強化について議論が交わされています。加えて、幼児教育や保育サービスの充実、育児休業制度の強化を含めた働き方改革についても、改善しなければならない重要な課題です。



倒木による死亡事故も 自治会の指摘で枯れ松を一斉伐採

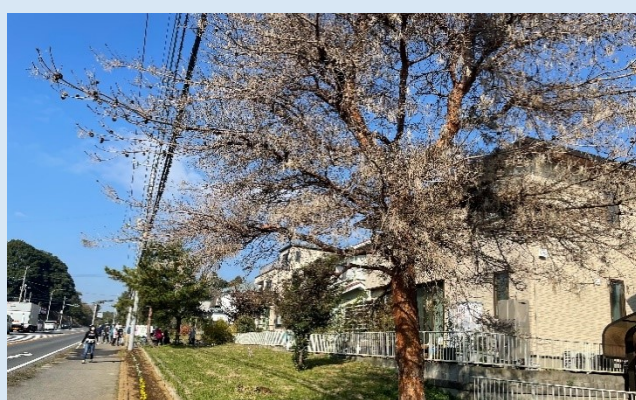
栄町を東西に通る県道成田安食線。沿道の松が相次いで枯死する中、倒木を危惧した竜角寺台自治会が県土木事務所に要請し、12 月に一斉伐採が行われました。

●佐賀県内では枯れ松倒木による死亡事故

松枯れが発生したのは、県道成田安食線の栄町・竜角寺台付近。沿道の松の多くが枯れてしまい、景観面と安全面で問題になっていました。

松枯れは夏から秋にかけて見られ、「マツノマダラカミキリ」に寄生する「マツノザイセンチュウ」の侵入により引き起こされるもの。水を吸い上げる管を詰まらせ、葉が茶褐色に変色。一度症状が現れると回復は困難で、被害が他の木に広がる前に伐採する必要があります。

地元住民が特に心配したのは、枯れ松の倒木による巻き込み事故。2019 年には佐賀県内の県道で、沿道の枯れ松が走行中の軽自動車に覆いかぶさるよう倒れ、助手席に座っていた児童が亡くなるという痛ましい事故が発生しており、決して杞憂などではありません。



歩道に面していた枯れ松など一斉伐採



●対応遅れたものの、12月に伐採を実施

この枯れ松問題については地元竜角寺台自治会でも取り上げられ、県土木事務所に対策を要請。11 月末になっても動きが見られなかったことから岩井に話があり、同事務所に確認したところ、早期に伐採できるよう準備を整えているとのことで、12 月末までに枯れ松の一斉伐採が行われたものです。

●お気づきの問題箇所ありましたらご連絡を

さて、県道はもちろん、多くの国道（3 ケタの番号がつく国道）は県の管理。枯れ松の他、車道にはみ出した雑木、雑草なども走行する車両の大きな妨げになる恐れがあります。日頃から利用する道路などでお気づきの問題箇所がありましたら、気兼ねなくご連絡ください。

ご連絡は mail@iwai-y.jp、または以下の SNS 等よりご連絡ください。



Twitter



公式 HP



FaceBook